

「高齢者の虐待予防と身体拘束の防止」研修会

(平成30年12月20日)

アンケート結果

回収数 99名

1. 性別

男性：25名

女性：74名



2. 年齢

10～20代：4名

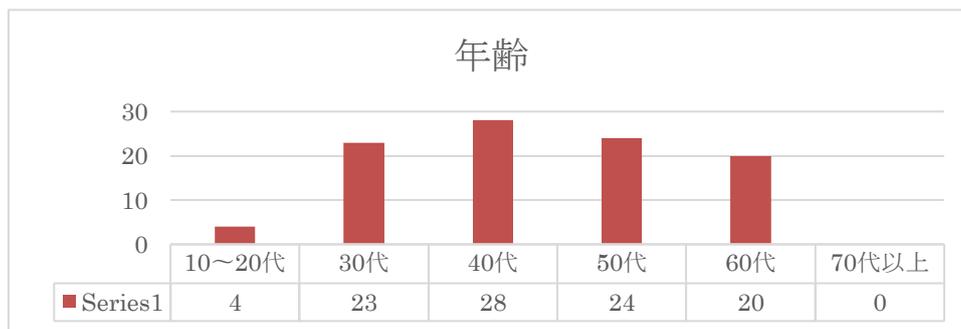
30代：23名

40代：28名

50代：24名

60代：20名

70代以上：0名



3. 所属しているサービス種別（兼務者は複数回答可）

グループホーム：30名

通所サービス：22名

小規模多機能居宅介護：24名

特別養護老人ホーム（地域密着含む）：3名

有料老人ホーム・サービス付き高齢者住宅：16名

養護老人ホーム：0名

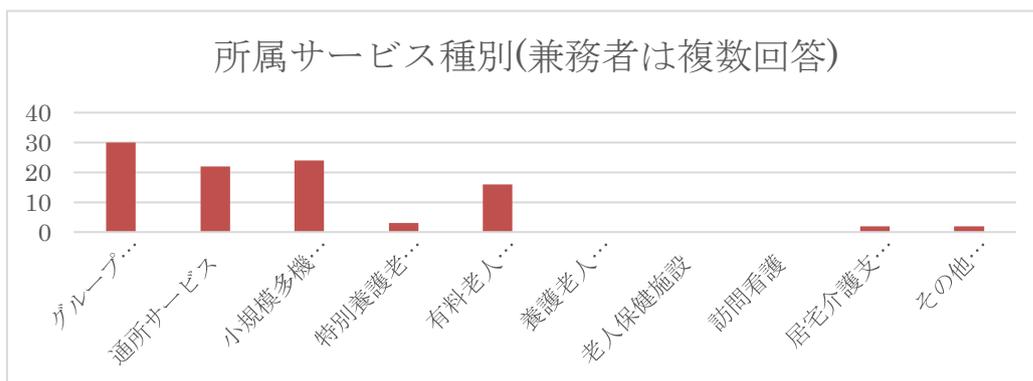
老人保健施設：0名

訪問看護：0名

居宅介護支援事業所：2名

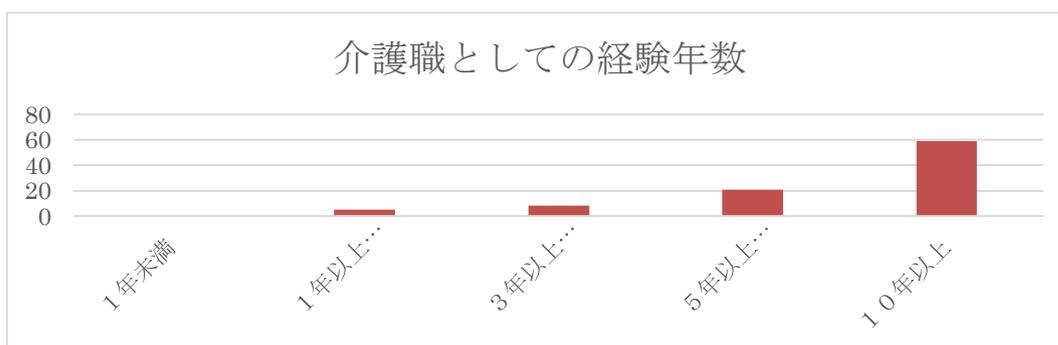
その他：2名

（サービス種別：地域包括支援センター、単独型ショートステイ）



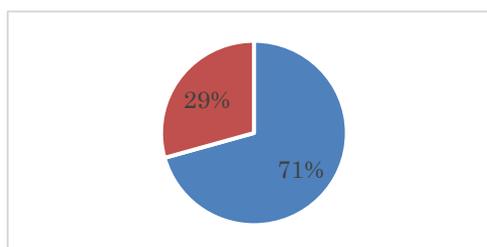
4. 医療・介護職としての経験年数

- 1年未満：0名
- 1年以上～3年未満：5名
- 3年以上～5年未満：8名
- 5年以上10年未満：21名
- 10年以上：59名



5. これまで勤務中に虐待や不適切なケアと思われる行為をされている利用者を目撃した事がありますか？

- ある：65名
- ない：27名



6. 5の質問で「ある」と答えられた方のみ回答ください。下記のどれに該当すると思われますか？（複数回答可）

身体抑制 : 22件

言葉の暴力 : 53件

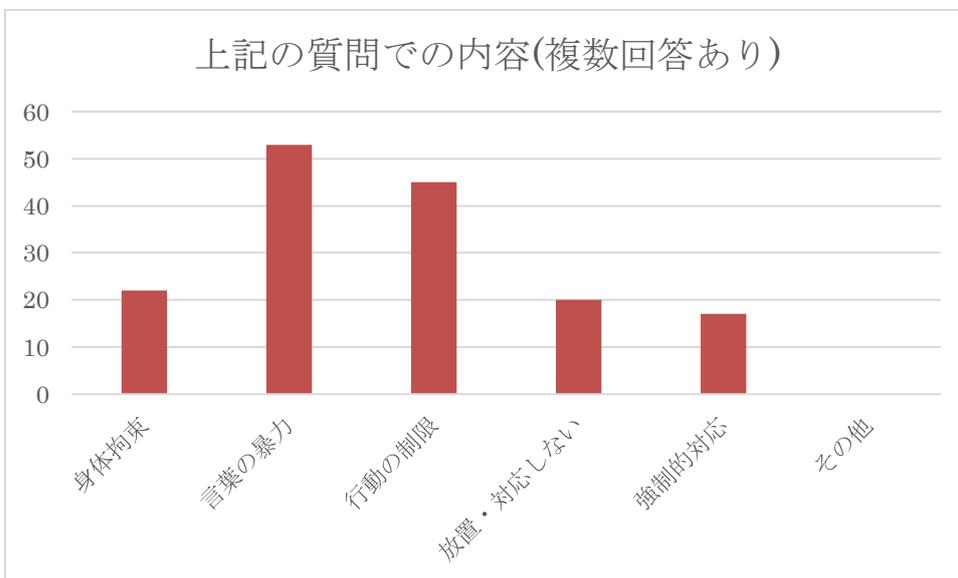
行動の制限 : 45件

放置・対応しない : 20件

強制的対応 : 17件

その他 : 0名

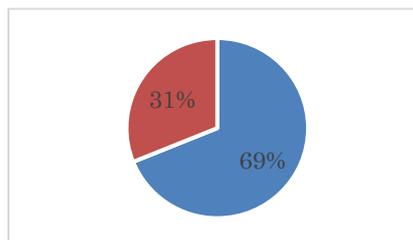
*その他欄に2件 スピーチロック、薬剤使用と記載があったが上記の行動の制限及び身体抑制に各1件ずつ加算する。



7. これまで勤務中に自分自身が虐待や不適切なケアと思われる行為をしてしまった、またはしてしまうかもしれないと思った事がありますか？

ある : 62名

ない : 28名



8・職場等において、虐待や拘束、不適切なケアを見かけたら自分自身どうしますか？

その本人に直接注意する：53名

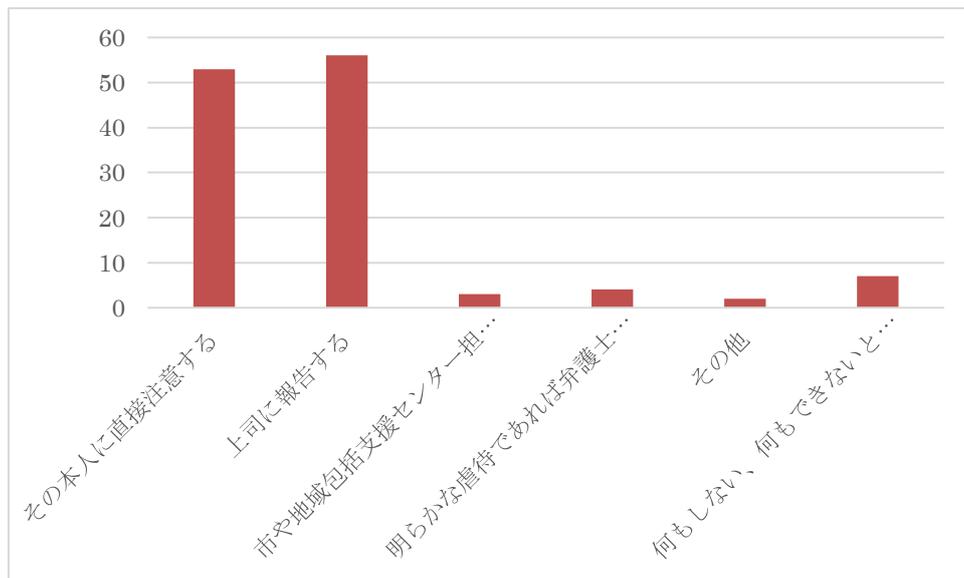
上司に報告する：56名

市や地域包括支援センター担当者・福祉サービス苦情処理窓口相談する：3名

明らかな虐待であれば弁護士や警察に相談する：4名

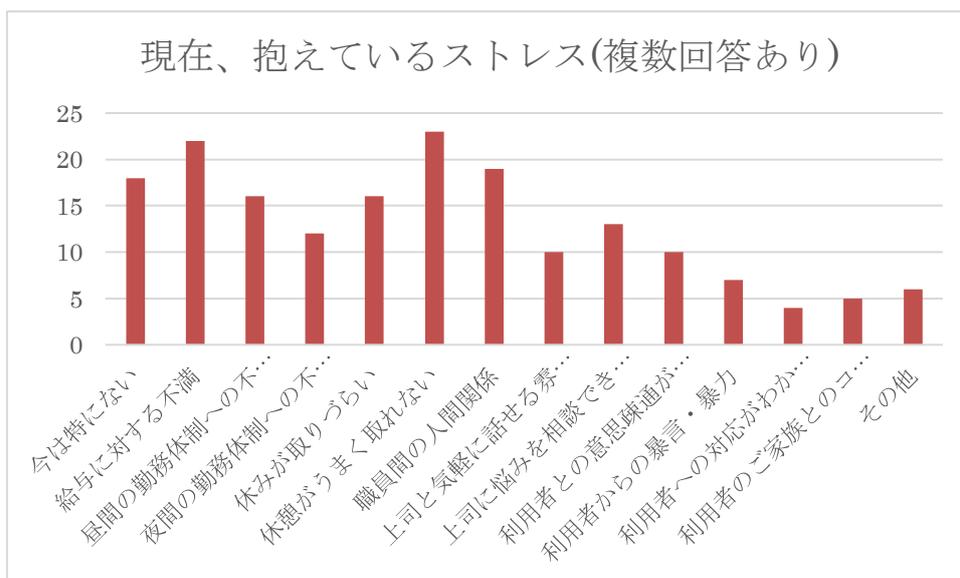
その他：2名（委員会へ報告する　ミーティングに問題提起する）

何もしない、何もできないと思う：7名



9. 現在、どのような負担やストレスを感じているか教えてください。(複数回答可)

- 今は特にない：18名
- 給与に対する不満：22名
- 昼間の勤務体制への不安・不満：16名
- 夜間の勤務体制への不安・不満：12名
- 休みが取りづらい：16名
- 休憩がうまく取れない：23名
- 職員間の人間関係：19名
- 上司と気軽に話せる雰囲気がない：10名
- 上司に悩みを相談できない：13名
- 利用者との意思疎通が困難：10名
- 利用者からの暴言・暴力：7名
- 利用者への対応がわからない：4名
- 利用者のご家族とのコミュニケーションがうまくいかない：5名
- その他：6名（スタッフに思いが伝わらない 人と関わりたくない）



10. 今後、虐待や身体拘束を起こさない為にどのようなことが必要と思いますか？
(自由意見)

- パーソンセンタードケア
- ケアを行う職員の心の余裕、切り替えが必要。余裕がないものが看ても丁寧なケアにはならないと思う。また、職員同士で分け隔てなく話せる関係、環境づくりも必要だと思います。
- 自由に話ができる関係、注意し合える関係
- 心にゆとりを
- 普段からのメンタルのコントロールと、自分の中での許容範囲の大切さを学びました。
- 施設内研修や他事業所等への研修参加を充実させ、意識の向上や知識をもっと高める
- 介護する職員が安心して働ける環境、十分な職員確保できる体制
- 人員の確保
- 利用者がどうしてそういう行動を取るのか本意を確認し根本的な部分も解決する必要がある。解決できなくてもプロ意識を持って対応する。それが無理ならばこの職種は合っていない。
- ケアが楽しめる様な職場づくり、利用者の喜びを共有できる仕事場づくり
- このような勉強会をスタッフ全員が受講する
- 言葉の暴力や行動制限していないかスタッフ同士で確認する。
- 利用者の立場に立って考える
- スタッフ同士で話し合いが持てるようにする
- 職員間のコミュニケーション、意見交換
- 共有できる利用者情報を持っておく事
- 余裕を持てる勤務、職員不足解消
- 職員の質向上、自覚を持つ
- 職員間の連携円滑
- 真心を持って対応
- 振り返る事、自問自答する。
- 一呼吸置く癖を持つ
- 基本に戻る気持ち
- ストレスをためない。苛々しない。
- 居室等他の人の目が届かない所での接し方に一番気を付けている。
- 職場内でプロである字画を持ち合い、苦しい気持ちを共有できる工夫をする事。
- 業務を無くす。例えば本当に今日この人を入浴させないといけないのか?! 支援する事を業務ととらえているかもしれない。
- 利用者にあった処置、対応の仕方

- 私は大丈夫だと自信がある人など居ないという点が、何となく安心する点でありお互いに共通する課題を持てる組織であること。
- 日頃のケア顧みる為にも定期的に研修が必要である。
- 個々が虐待や身体拘束かを理解しないといけないと思う。
- 感情を上手くコントロールしていかなければいけない。
- 自分に置き換え考えることが必要だ。
- それぞれが心に余裕を持てるように、仕事以外の生活も充実させる。
- 職場環境の見直し（スタッフにもゆとりを・・・）
- 繰り返し虐待や身体拘束の勉強会の開催
- 人員の増員 多忙を感じる
- スタッフのストレス軽減
- スタッフ間の良好な関係性作り（方向性を合わせる。気軽に相談できる）
- 職員同士の意見交換の場作り
- 一人で抱え込まない
- 相手の立場に立ってケアする
- 利用者さんとの馴れ合いで発言を見直す
- 他のスタッフが行っている場面を見つけたら上司に報告する
- モラル・倫理感を育てる為の教育（小さい頃から）
- 緊急性やむえない場合が日常的になっているのでは
- セルフコントロール
- これでいいと思ひ込みをしない
- このような講義を広く介護従事者に向けられたら良い
- 虐待0の霧島市へ、連合会の事業所職員は年1回研修を受けるようにしては
- 意識を高める
- 時間、職員数に余裕があれば
- 広い気持ち・心

11. 今回の研修についての感想・ご意見をお願いします。

- ついつい「このくらいまでなら」等、自分の中での基準が甘くなり、少しずつ虐待かそうでないかの判断力も悪くなっている様に感じます。今回の研修でまた一から自分を見つめ直し、よりよいケアに努めていけたらと思います。
- 自分を見つめ直す研修でした。
- 今一度、見直しが出来ることが必要であり、一人で考えるのではなくチームで取り組むことも必要でした。
- 施設において改めて話し合いたい、また定期的に確認し合いたい。
- とてもためになりました。自分のケアを見直す機会になりました。

- 改めて自分のしている仕事の重さを考えさせられました。動画は利用者の思いが詰まったもので本当に感動しました。自分を信じ、スタッフを信じこれからも充実したワークライフを続けたい。
- 知っているようで知らなかったことが勉強できた。ケアを見直し、改善していきたい。
- 再確認でき良かった。このような機会を楽しみにしています。
- 身体拘束や虐待の研修は無かったのでとてもありがたかった。
- 原点に帰れました。職場で再度研修します。
- 動画を見てここまで話を引き出せるのはすごいと思いました。
- 施設に入る事も拘束になるのかなと思いました。
- とてもわかりやすい研修でした。
- 何か胸にジーンと来ました。
- 事業所での研修に活用します。
- 良くできた研修であった。
- とても勉強になり初心に帰る事の出来た研修でした。全員が参加できるようなこういう内容の研修をしていただきたいです。
- 最後の利用者のつぶやきで自分がこのような立場にあつたらと心を打たれました。色々考えさせられました。10年以上介護をしています但し仕方ないという気持ちや忙しさにかまけて利用者にしんどい思いをあたえてしまっているかもしれません。常に利用者の事を考えて向き合っていけるように努めたいです。
- 80年代の介護現場の映像を見て正直びっくりしました。今自分達が行っている介護ももしかしたら間違っているかもしれないので一つ一つ問いかけながらやっていけたらと思う。
- 鹿屋の件と合わせてお話を聞くことができとても興味深く聞くことができました。
- 本日は勉強になることが多く事務所の委員会に持ち帰りたい。
- 拘束について再勉強できる機会がありがたかった。
- 考えさせられる研修でした。
- とても分かりやすく、自分はどうだったか利用者さまの立場になってもう一度考えたいとおもいました。
- 大変、参考（勉強）になりました。感動しました。
- 職場では、上司に相談しても対応してくれるのか？仲間外れにならないか気にしてしまうと思います。
- 自分自身の介護について考えさせられた。
- 職場の方と一緒にこの研修を受けることができ、感謝しています。ありがとうございました。
- 職場に戻り、再度勉強会を開催したい。

- 昔のスライドを見て、自分を振り返る機会になった。
- 昔は身体拘束が日常的に行われていた事が当たり前、つなぎ服も販売していたし、判断が難しい
- 改めて自分が命と向き合う尊い仕事をしているんだと感じた
- 改めて利用者様の立場に立ったケアに努めなければと考えさせられた
- 自分だけでなく全スタッフに伝わるようにしていきたい